



新編
小學讀本
二



明治七年八月改正

文部省刊行

小學讀本卷二

明治九年五月 神奈川縣翻刻



小學讀本卷之二

第一

此女兒ハ、人形ヲ持テ
ク。汝ハ、人形ヲ好ム
ク。我ハ、甚ク喜ビ、好
ム。此男兒ハ、人形
ヲ持テ、ク。否、男兒
ハ、人形ヲ持ト、ク。



田中義廉 編輯
那珂通高 訂正

小學讀本

卷二



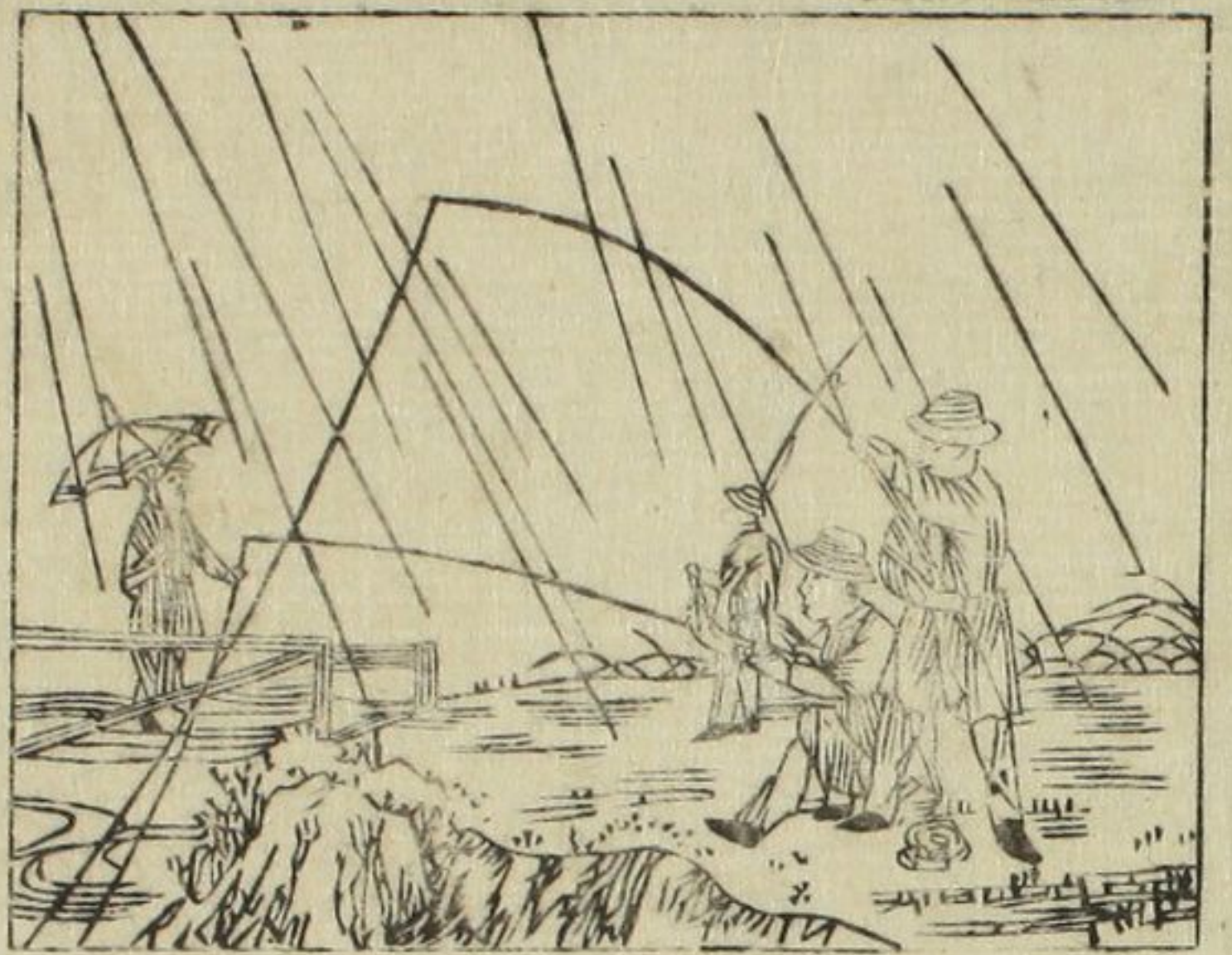
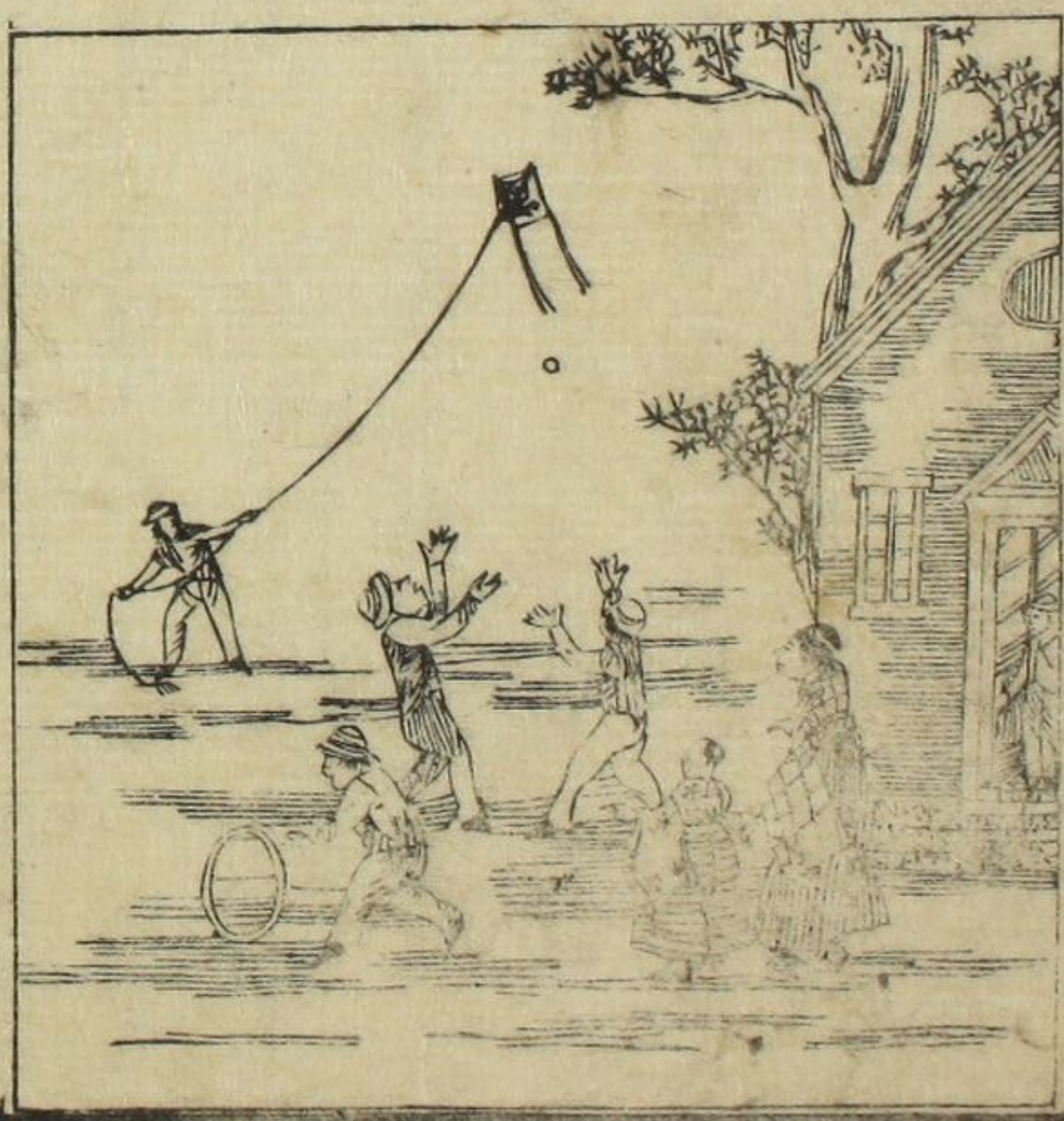
鞭と持てり、男児の遊ハ女兒と異ふとばかり
 老たる北雞鶩の子と、多く伴へり。此鶩の子ハ、
 皆水の中ハ、飛入せり。此鳥ハ、
 其性、水上ハ泳ぐことと、好めり
 ○北雞ハ、其沈み溺せんことと、
 恐とて、甚憂ひ悲めり。然とど
 も、鶩の子ハ、北雞の心を、量り知
 らざりて、随意ニ遊べり。北雞
 ハ、何と憂ひ悲むと思ふや。北
 雞ハ、此鶩の、游水鳥ふると、知ら

びし、我子と思ひ、悲めるを、
 爰ニ、成長したる鶩、
 嘴も、北雞の嘴より、大なり。其
 足ハ、蹠たり、故ニ、水ニ入りて、能
 く泳ぐことと、得るあり



此ハ、何家あると、知まらざり。や、
 數多の男女の子、此家ニ通ふと、以て、
 知らざり。汝ハ、小兒の遊歩場ニ、
 出で、遊ぶと、見たり。や、
 數多の小兒、出で、走るも、
 たり。球を弄ぶも、たり。或ハ、
 紙鳶を揚げ、或ハ、輪を廻し、
 遊べり。

○男兒も、女兒も、學校
 へ行くに、能く勉強するべ
 しの能く勉強する、
 後日非きば、遊歩をや
 るさうとも、誠又、樂ま
 こと、ふまものあり
 今此子の、釣うたる魚
 の鯉あり。汝も、魚と
 釣う得たるとき、能く心を用ひよ、釣糸を切ら
 ること、つらべし。天曇りて、雨少しく降り来



じりの魚を釣るより、雨天の
 ときを宜しとをらう。然る
 少しく雨降りて、風よく暖か
 る日、宜しといふ。汝も、魚を
 釣ると以て、宜しき事と思ふ
 う。然る魚を釣うて、食する
 へ、悪しき事、はらうと雖、釣
 うたる魚を、弄びて、徒に捨つ

るに、宜しういふべ
 男兒と、女兒と、はらう。これ、學校へ行く途中

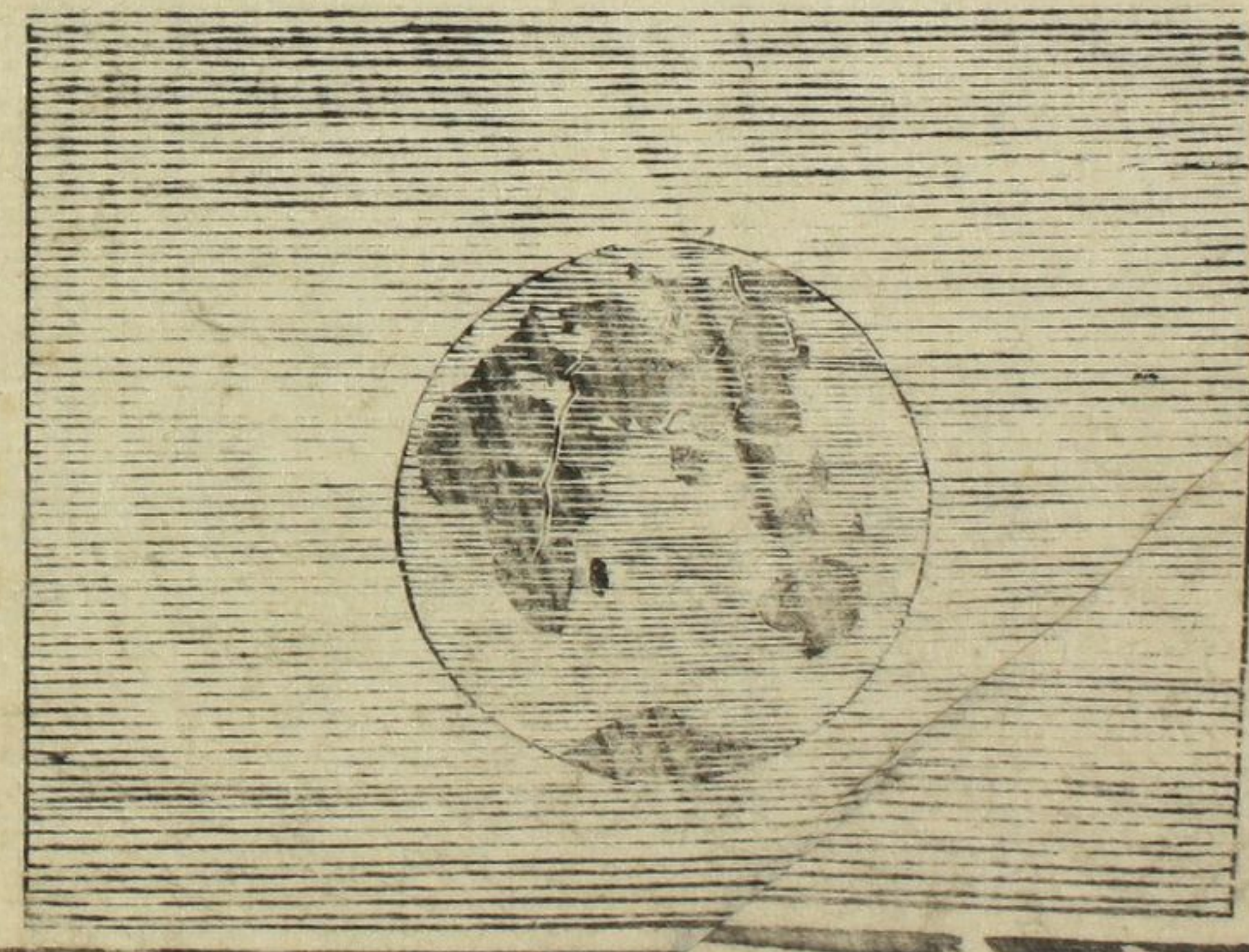
〇今急きて、學校へ行かん
 と、思ふがゆゑ、男兜、女兜
 と取けて、走る。此兜等、
 學校へ行くと、樂と思へりや
 〇然る、此兜等、其性善きも
 のなきに、學校へ行きて、學問
 することと、第一の樂と思ふなり
 此馬ハ、柔和なる馬ゆゑ、二人の小兜と、乘せて歩
 めり。此馬と走ると、思ふ。〇此馬の、前の一足
 と、擧げて、あとの一足と、下さんとすると、見れば、



此處ハ、工人の作事場なり。數多の大人ハ、作事
 と事とせり。〇二人の小兜ハ、此作事場を來り、板

走る。ハ、けり、徐々歩
 むあり。〇前の小兜ハ、手
 綱を、両手又持ちたきど
 も、其見ゆるに、只右の手
 のみあり。〇後の小兜ハ、
 馬より、落つることと、恐
 る。ゆゑ、前の小兜と、
 抱きてをせり

きものつて、世界は光と
 熱とと與ふるものあり
 ○我等晝に、太陽を見ま
 とも、夜に、見ることあり
 ○汝、夜の、太陽を見ること
 とと得ざるに、何ゆゑな
 ると知さるや○夜の、太
 陽の方へ、向てざるゆゑ
 に、見ることと得ざるな
 り○月も、亦圓きものな



きども、太陽、及地球の如く、大ありん○月へ、原
 より、光をさすものなとども、太陽の光を、受けて、始
 めて輝くものあり
 我等一同、草刈場へ出
 来たり○小兒に、刈りた
 る草の上へ、坐し居て、草
 を刈るを觀る○枯草は、
 柔なる物をさすに、此上へ、
 遊び戯るるに宜しきな
 り○草は牛馬の食あり、



ゆゑは、牛馬や畜ふ家にては、夏の間に刈りて、こ
きと貯ふ



狐は、犬に似たる獸にして、
頭平し、鼻と耳と、尖りて、
尾は甚長し。此獸は、穴の
中へ住し、晝は隠れて出で
ば、夜は入るべし、穴より出で
て、田畠の傍を遊行し。狐
は、食を貪る獸にして、多く
雞の雛を食ひ、又好く、桑

の實櫻の實等を食ふ。○雞を捕ふとば、穴を持ち
行きて、こきと食ふ。○もし、犬を見るときは、穴の
中へ逃げ入りて、出づることなし。是は、穴へ入ら
ざれば、直に、犬は噛み殺さる。故あり。



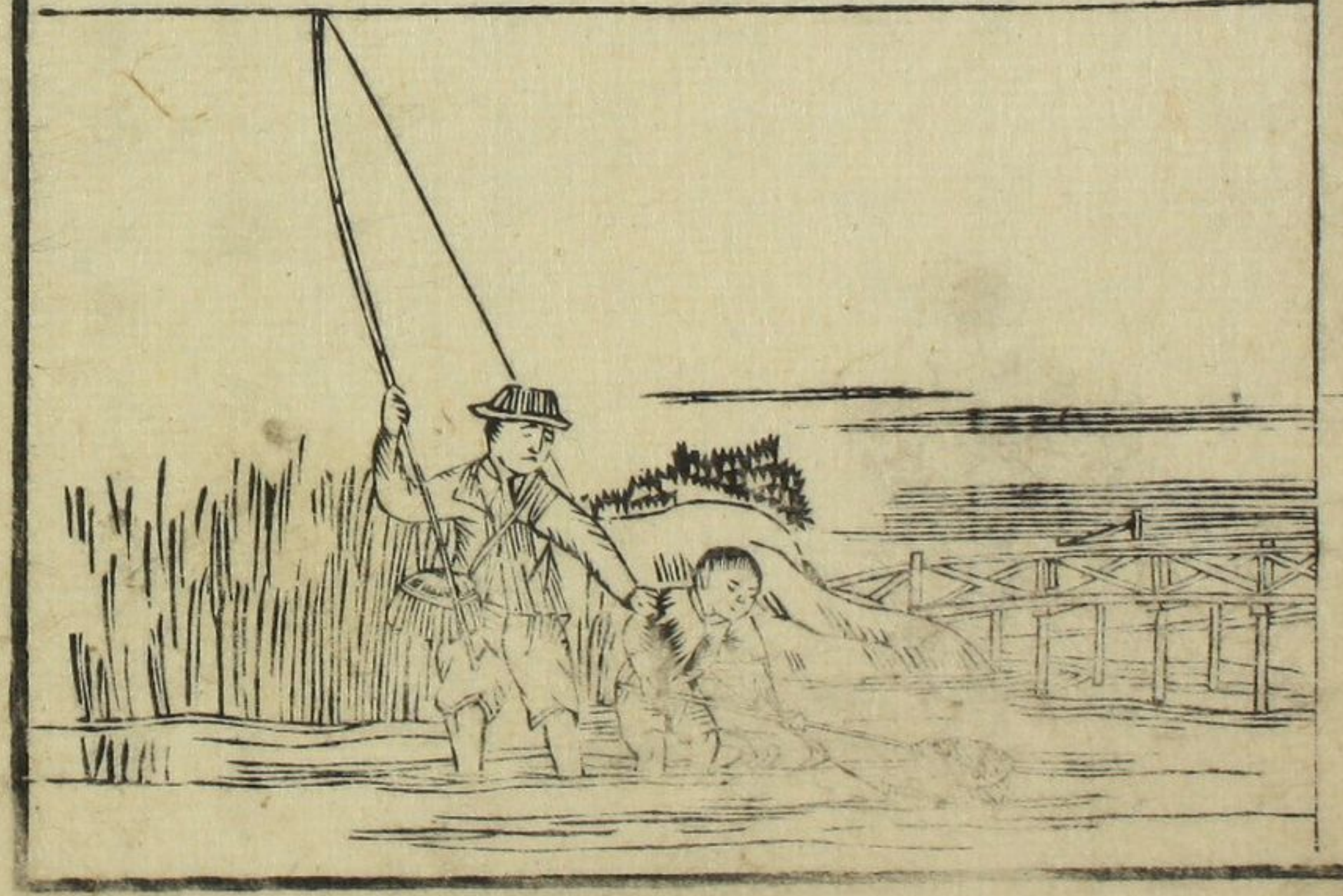
只匍匐をうのりあり
この蟲は、背の上へ、殻をうけて、物
を恐るるときは、其中へ縮み入
る。○蝸牛の、動くときは、四本の
角を出し、其中、二本の長き角

の先、目より、短き角の下、口より、○此蟲ハ、冬
 ハ、土の中ハ伏シ、春の至ると待ちて、出づるなり
 汝も、此處ニ、男兒と、女兒
 と、驢馬の在ると、見たり
 ヤ○男兒ハ、驢馬ニ乗ら
 ん、と、何如ニ、汝も、乗
 り易かるべしと思ふ
 ○驢馬ハ、小さま馬あれ
 ども、小兒ニ、乗り難
 ずべし○遙の向ひニ、荷車あり○汝ハ、此荷車を、



何ありと思ふヤ○遠き處ゆゑ、慥ニ見分くるこ
 と、能えざれども、畠の小路ニ、つらと見れば、穀物
 を載せたる、車あるべし。
 此圖に、画きたるものハ、何ありヤ○大人と、小兒
 と、二人水中ニ立てり○此等ハ、何をあるヤ○此
 人々ハ、魚を漁むるなり、大人の釣りたる魚ハ、大
 あるゆゑ、強く曳くハ、糸の切れんことを、恐
 て、遠く、曳き舉げざるあり○男兒ハ、持ちたるも
 のハ、何ありと思ふヤ○それハ、網の類にて、たま
 とつものあり○男兒ハ、此網を以て、魚を捕へ

んくん ○大人の脇へ懸
 けたるは、何あるぞ ○こ
 れは、蓋のつら籠めて、其
 中へ魚を入るあり ○
 此人の、立ちたる處は、深
 ーと思ふろ ○人の膝ま
 ず、水に入らざると、見え
 ぬ、甚深うぐぐ、もー深水
 ぶまば、二人とも立つと
 と、能をやるべー ○此河



え、架したる橋なり、汝は此橋は、何ぞ造りたる
 と思ふぞ ○橋は、木と、石と、鐵との別の所をど
 も、こまに、木にて造りたる橋なり、
 汝は、此男児を、何歳許あ
 りと、思ふや ○此男児は、
 十歳以上あり ○此男児
 は、善き人ありと、思ふろ
 ○否、學問をもせぬ、又遊
 歩をもあさぬと、休み
 をちゆゑに、怠りものと、



知らずあり。○此男児、何れ倚りて、何れ見ら
 や。○此男児の、倚りたるもの、大なる石の柱な
 り。又此男児、何れも見れ、只天とふむるあり
 ○總て、小児、勉むべき時、行り、遊ぶべき時
 も、行り。○此小児、如く、常々勉強とふむる
 とき、成長の後、人々勝ることと得ざるあり
 爰に、又、急情の小児、行り。○彼、學校へ行く
 と云ひ、何ゆゑ、學校へ行くべし。途中、遊
 び居るや。○未^ダ學校へ行くべき時刻、来らばや。○
 學校より、既に、昔古始まりたる、此小児も、と

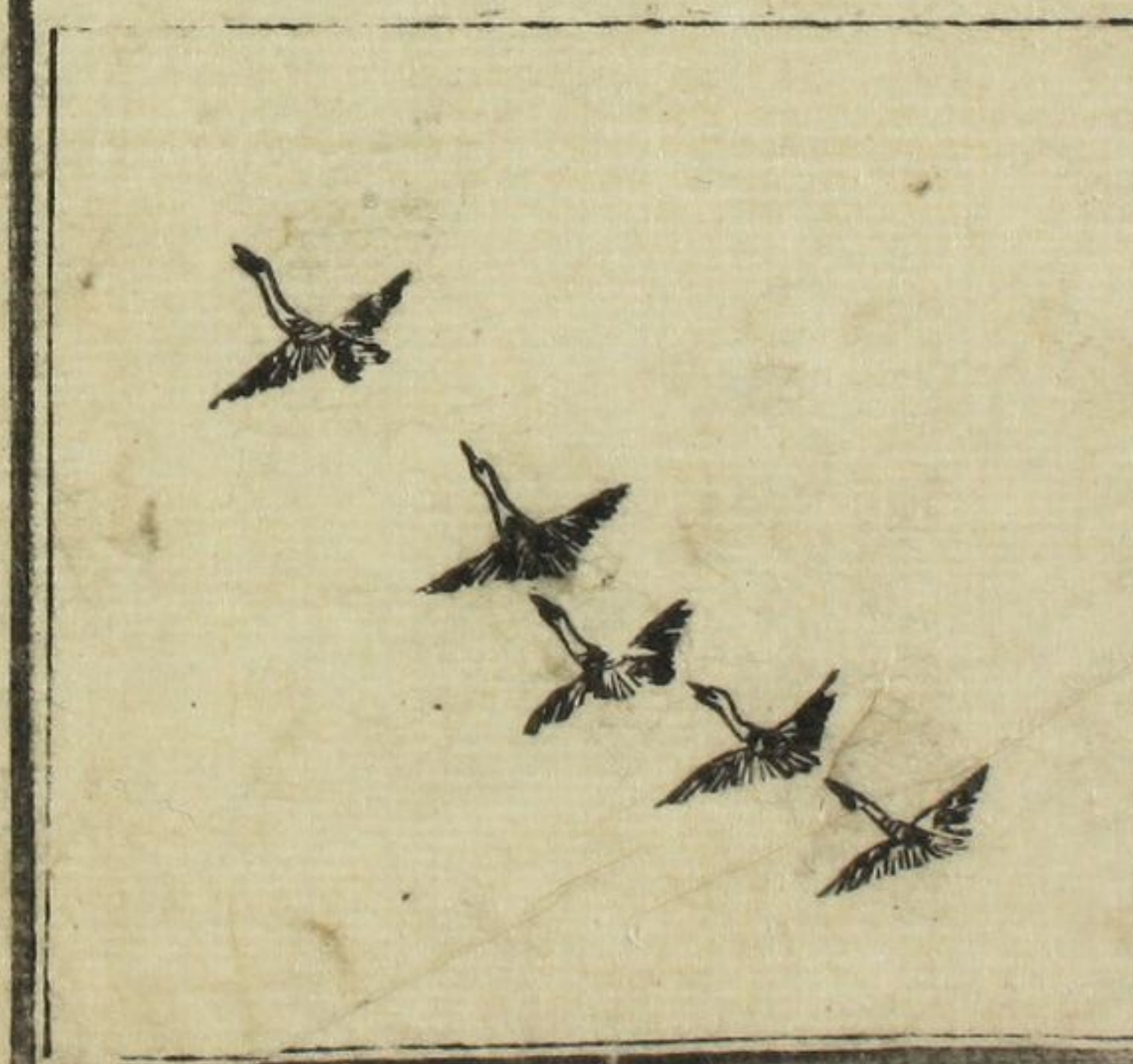
く行くべき時刻あり。○然らば、何ゆゑ、爰に止ま
 り居るや。○彼ハ、犬を乗り、又他の、急りもの、遊
 びんと、思へばあり。○彼、
 學校へ行くものあり。○其
 書と、何處に置きたるや
 ○書と、自分の家、忘れ
 たるあり。○さすれば、學校へ
 行きたる。○昔古、
 とと得ば。○善き小児へ、書
 と、大切なる、學校へ行



く好み、誓古の時間来まれば決して途中へ遊
び居ることなく、學校へ行くも、能く勉強して、學ぶ
ゆゑ、其等級、屢進あり

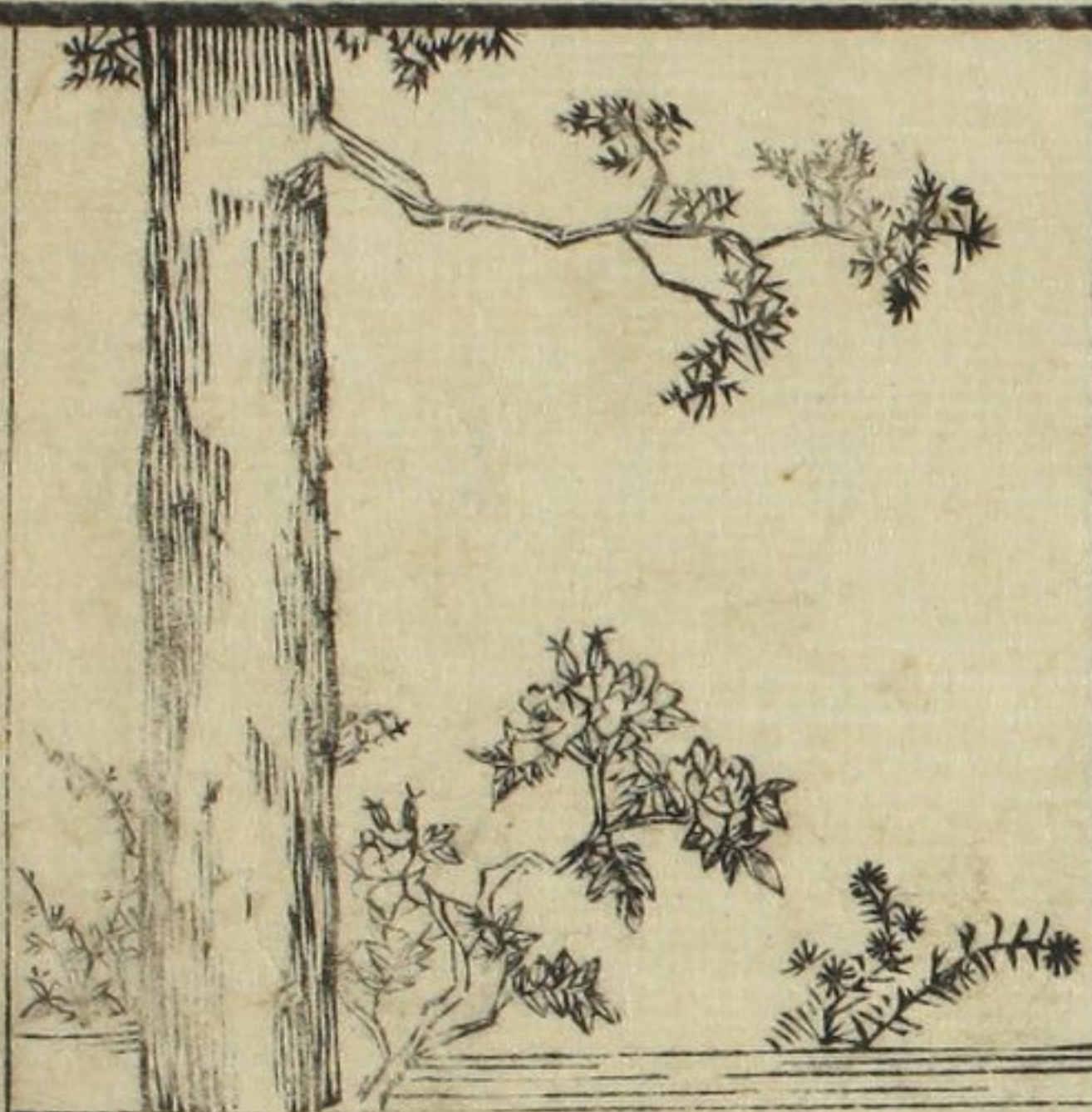
第三

雁の列とふし、行く圖
りりの見るべし、一羽の
雁、導とあせば、其他の雁
は、これに隨ひて、飛行く
と。是も、何處か行くや
の或は、水邊へ行きて、葦



の間、息み或は田へ下りて、食物を求めんとし
るあり、

此鳥は、冬は北より南に來り、春に至るとは又南よ
り北に歸る故に、夏は此地に居ることあり



地へ生ひ出づる物、草と
木と、りりて、木、灌木と、喬
木と、りりの草は、其幹葉一
年限りて、枯るものな
り、灌木は、高一丈は出で、
と雖、其幹は、枯るもの

八景書下
六十一
士
八景書

ありの喬木とい、成長して、高大に至るものと云ふ。此三の者と合せて、植物と云ふ。植物は、生を保ちて、能く成長し、又死して、枯朽するものも、ども、人の如く、物を思ふべし。根は、食物を、地下より吸ひ、葉は、能く呼吸を、れども、鳥獸の如く、動くことあり。



鳥は、二つの足と、二つの翼にりて、多くは、空中に翔る、又水上に住むものも、いづれも、獸類は、四足にして、膚は、長き毛に

り。此鳥と獸とい、身體を、意は、従ひて、動らせども、人の如く、言ふこと能はず。汝は、實のる草木の、種類を、知まらば、其莢と見て、豌豆と、蠶豆と、と知り、穂の形を見て、稻と、麥と、と知るべし。

草木より、皆種子なり。豌豆、蠶豆は、莢の中より、在りて、梨、李、橙は、肉の中より、在り。種子の、食物と、なるもの、稲、麥、豆、黍、粟の類なり。肉の、食

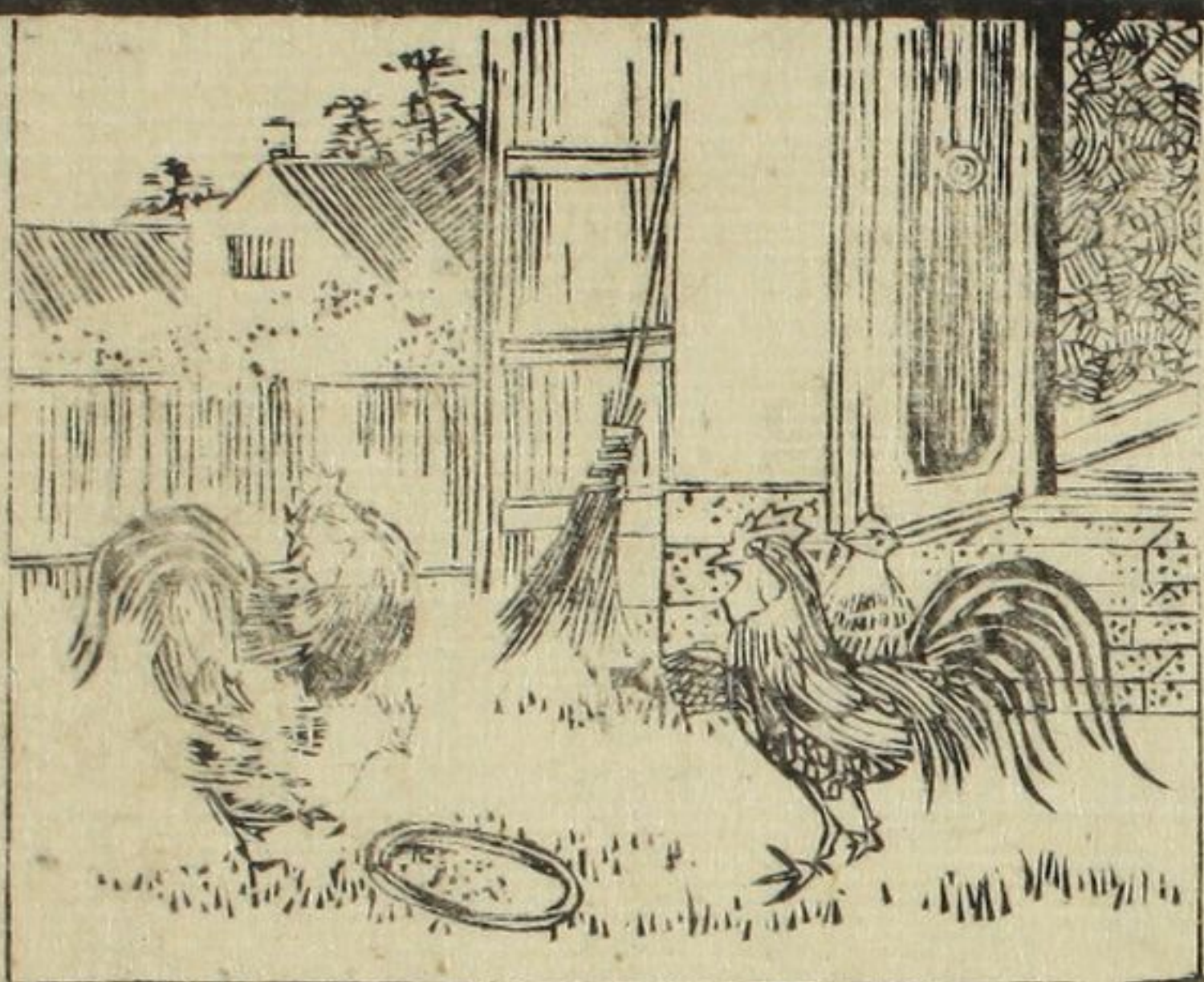


物とあるもの、梅、桃、梨、李、蜜柑の類なり
 草木ハ、皆種子より生じ、濕ひたる土の中ニ種子
 と置くとときハ漸ク膨脹して、遂ニ破裂し、其所より
 芽と根とを生じ、あり
 鹿ハ、山林ニ住まむ獸なり、
 この獸の牡ニハ、枝と生ト
 たる角あり、牝ニハ、角なし
 其色ハ、茶褐色にして、白き
 斑あり
 鹿ハ、長き足ありて、走るこ



と甚速あり○常ニ草木の葉と、食とし、或ハ、田野
 に来りて、穀物と、食することあり、此獸の角ハ、堅
 くして、器に造るべく、又其皮ハ、席とあるべし
 此男兒ハ、惡しき心のもものあり、汝ハ、この男兒の、
 持てる、帽の中に、ける物と、見たるか○これハ、柿
 の實あり○此柿の實ハ、垣と踰え、隣家より、盜
 と取まるあり○今此男兒、柿の實を、盜と取り、垣
 と踰え、出でんとする所と、數多の犬ども、これ
 と見て、男兒を追ひ、一匹の犬、男兒の裾を咬
 へ、男兒より、男兒ハ、垣と踰え去ることを得ば、

此時、盗とたる柿の實と、捨
 ておは、犬ハ、裾を放つべけ
 せども、此男兒ハ、これと捨
 つること能はば、他人の
 物と盗むハ、決して、為ま
 事ことなり、善き小兒ハ、自
 分の物と、けりしけれを
 取ることなり、○常ニ、行
 状の、正しきものハ、幸多
 く、正しきものハ、幸と得
 ること能はば、幸多
 ば、汝等、他人のものを
 見て、何如あるものあり
 と、必これと、得んことと、
 欲することおかし



爰ニ四箇の雞と、穀倉とけり、○汝が見る所
 ハ、これのそありや、○否、家の後ニ、松けり、垣ニ、寄
 せて、立てたる簾けり、雞の飲水と、入るたる、水鉢
 けり、○汝ハ、此鉢ニ、水けりと
 思ふや、○必水けりあるべし、
 ○何と以て、水のけりを知
 る、○此鉢ニ、少し傾きて、一
 の縁、高く出でたるを以て、水
 のけりを知り、水ハ、傾きた
 る鉢の中より、決して、斜

高
 文部省

傾くことなく、其表面へ、必、一様、平なるものあり。○汝ハ、雞の、水を飲むて、見一や、雞ハ、牛馬の如く、首を下げて、飲むこと能はず、ゆゑ、一滴口に入まば、首を擧げて、咽え、飲み下だをあり。此處ハ、何如ある所ありや。○此處ハ、穀倉の傍ふらぐ、雞ハ、巢に、上らんとし、梯子と、傳ひ行くあり。○梯子に、横木あり、とまへ何ありや、此横木の、梯子の級あり。



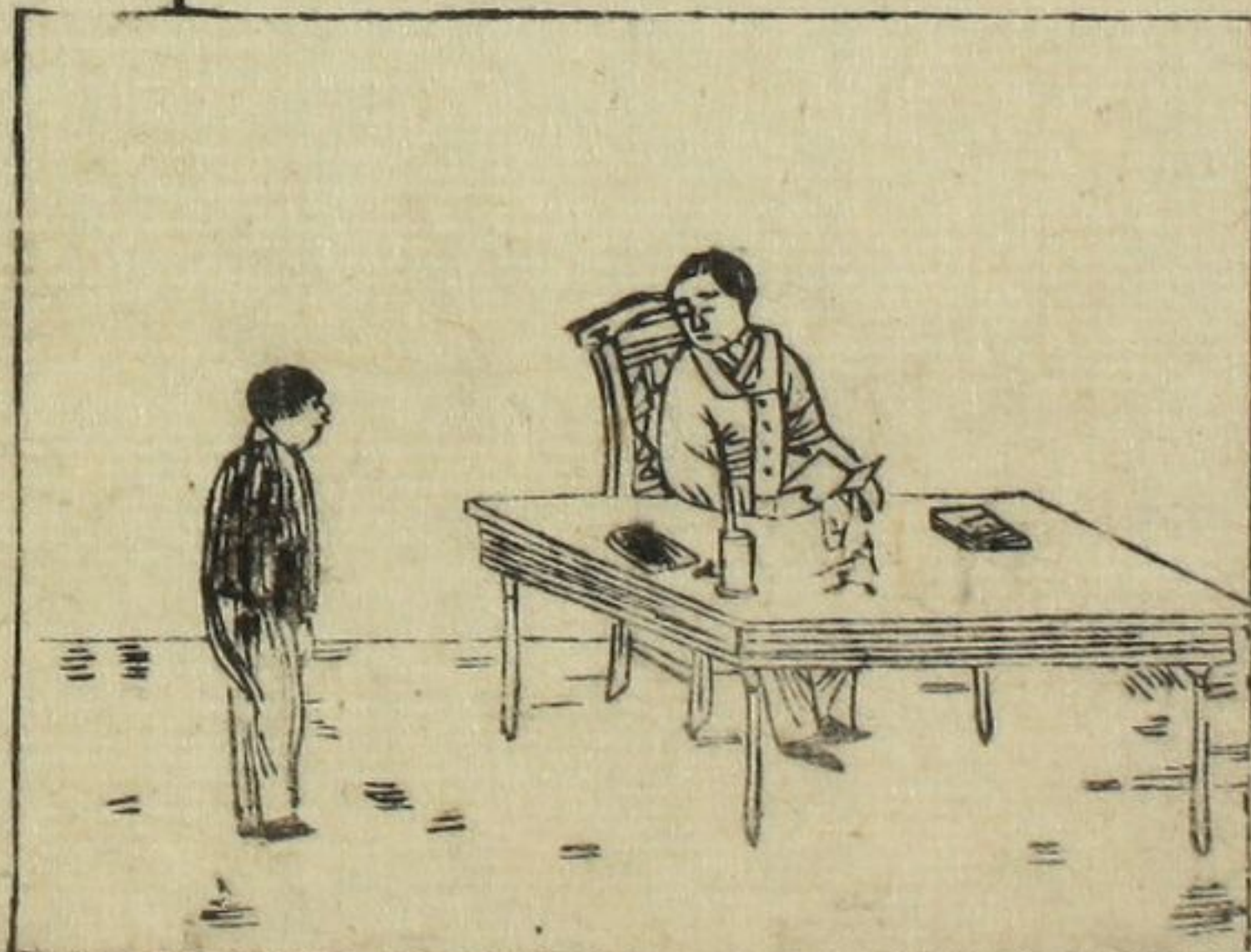
汝ハ、雞の巢と、見たるか。○巢ハ、隠れて、櫓の裏にあり、ゆゑ、見ることを得ず。汝此處に來て、汝昨日、失ひたる所の、書籍と、尋ね得たりや。○否、未、尋ね得ず。○汝ハ、文庫の中と、捜し見たりや。○幾度も、捜し見たまども、其處より、汝ハ、今、一度、尋ね見よ、書籍ふけまば、學ぶこと能はず。又、汝ハ、筆ありや。○筆ハ、命ぞと、また、如く、文庫の上と、置きたり。○汝ハ、筆の用を、たて、知またり。○否、未、用をかたと、知らず。○汝、今、其筆と、取來

是書ハ、一、六、二、五

ま、汝も筆の用方々、教ふべし、筆の用方々、知らざれば、字を習ふこと能はず、汝も、今日學校へ行きたりや
 ○學校へ行きて、終日學びて、先刺、歸り來たり○然らば座を就きて復讀せよ、凡て學びたる所を、常に復讀して、決して忘るべし

第四

岸の上より二人の少年、舟りて、三艘の船の岸に着



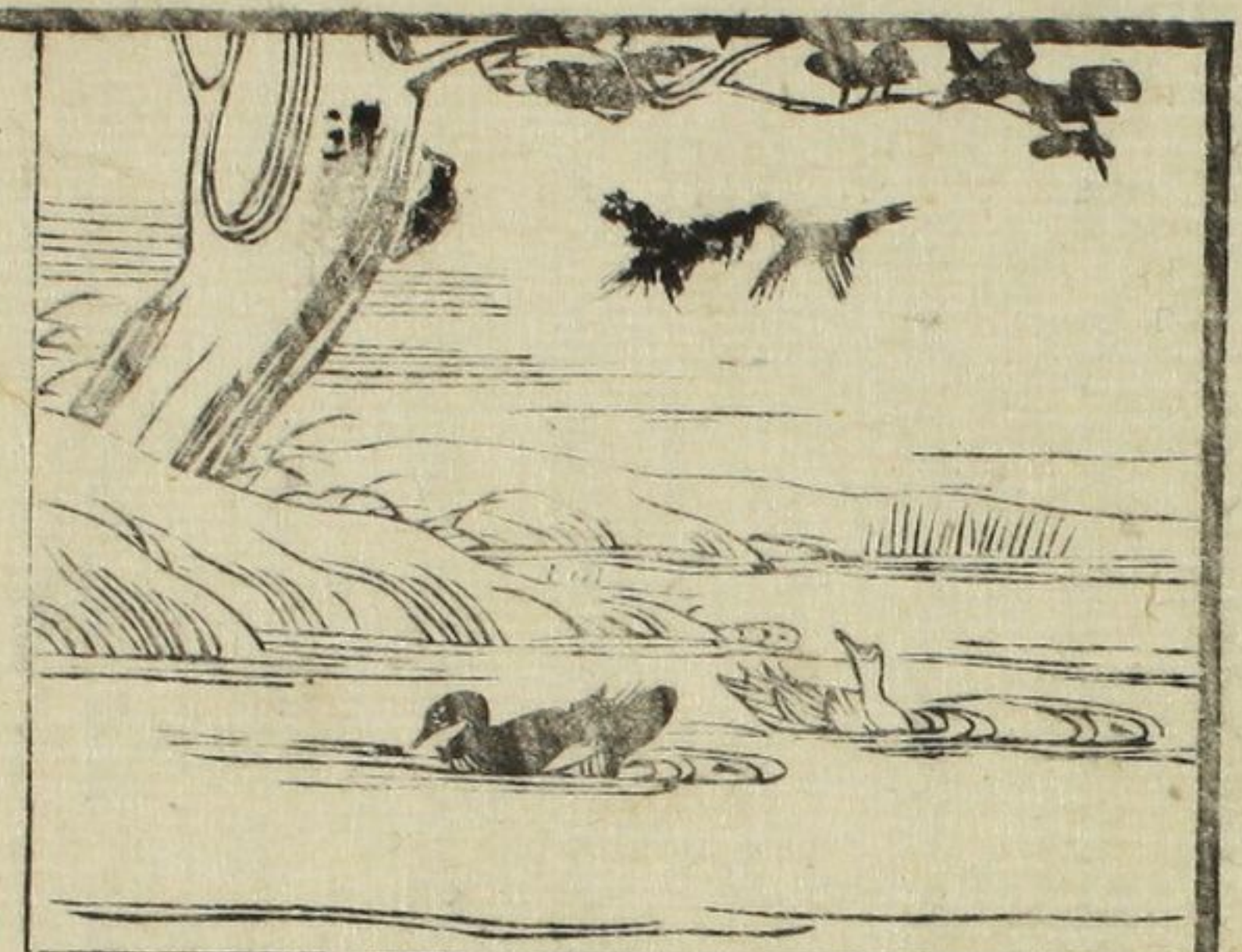
くや、見居たり○三艘共、帆を、十分は張りて、橋の上より、旗を、揚げたり、船を

一人の少年云ふ、我が朋友は、去年、先づの船を來りて、外國へ、往きたり、今日まで、殆一年も及びて、歸り來たり、彼の両親も、日々、彼の歸る



と待てり○今日、無事ある顔と、見るごとく得て
 何許かの喜ばしうらん、また、彼男も父母の急な志
 顔と見ば定めて、大に喜ぶべし
 彼船は、堅固なる船にて、風雨に逢ふとも、破損な
 く、無難に歸り来むべし、船中の人々、皆此船を忝
 く思ふあるべし

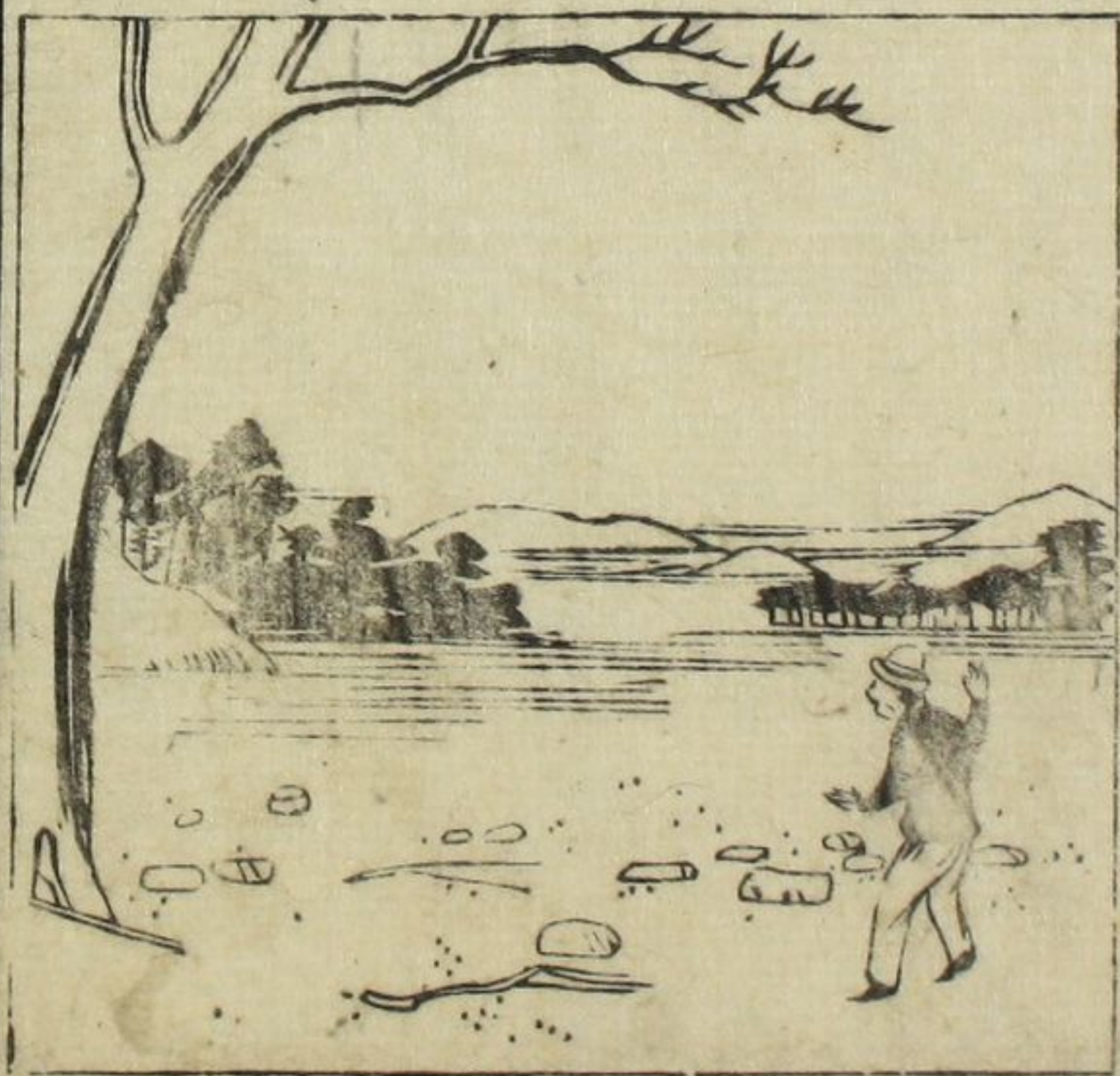
人々の、外國は行くは、學問或は、貿易を志して、我
 國の利益とふさんごとく欲するがゆゑあり
 總て鳥は、嘴の長きものと、短きものとあり○此
 嘴より、食物を啄む○鳥は、穀物と、食するもの



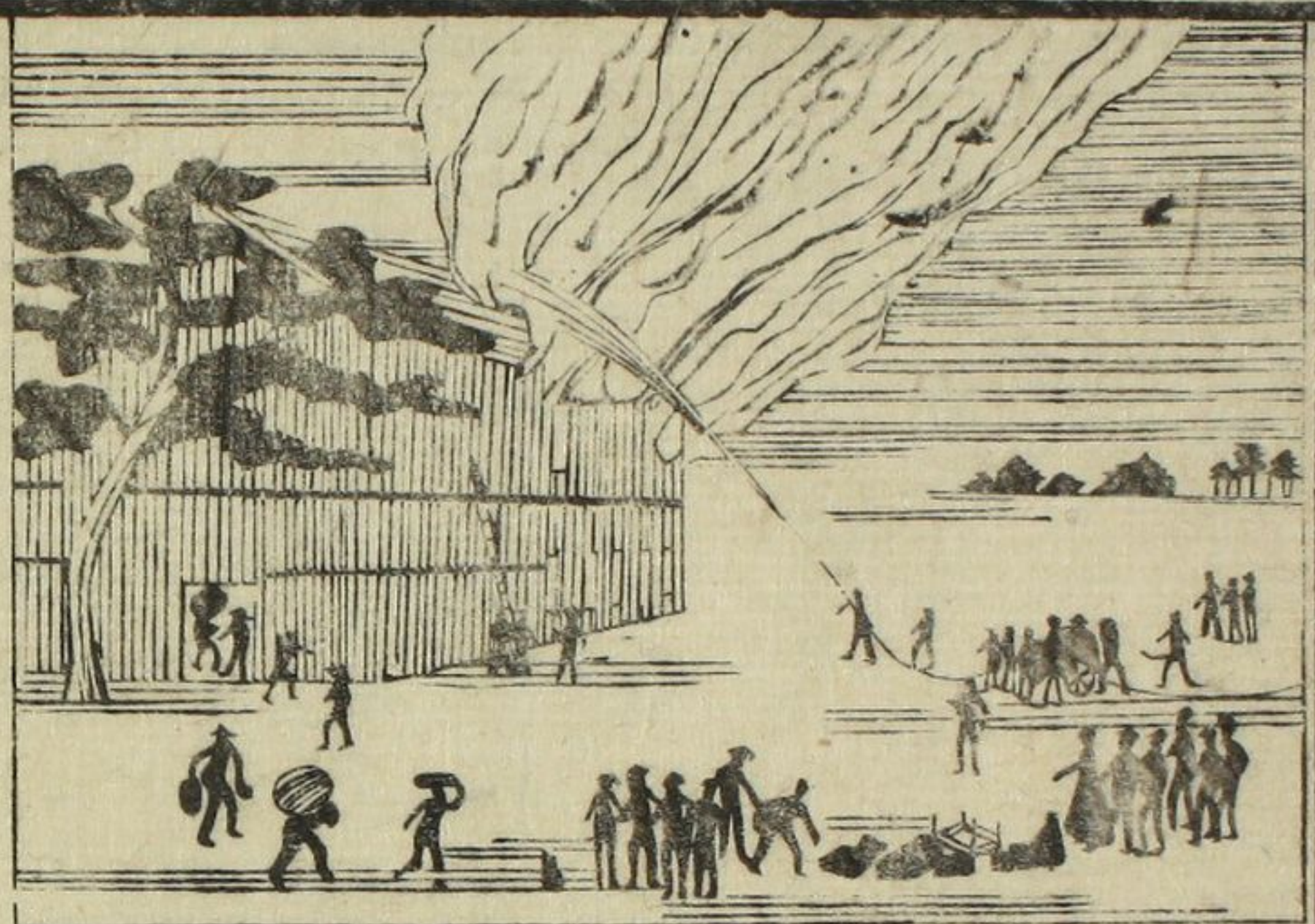
と、魚、又は、蟲を食するものと
 あり○鳥の目は、面の両側より
 ありゆゑ、一時は、両方を見る
 ことと得るあり○林中に遊
 ぶ鳥は、林禽とつひ水上に遊
 ぶ鳥は、水禽とつひ○鳥の足
 は、四指ありて、三指は、前、一
 指は、後より、然れども、啄木鳥類も、前後、各二指
 ありて、能く大木に上下し、樹皮の中へ、住む蟲を
 捜し食は

小學讀本 卷二 一七

此人ハ驚きたる風情なり、是ハ何故ありや、○何
 故あることと知らば○此人も、久しき以前も遠
 方より行きて、今我郷に歸り來るに昔住みたり
 一家の變りたるを見て、
 驚けりあり、
 さて此家の斯く變りた
 る所以と、詰り聞かんべ
 也。
 此人の家と出でたる後、
 近隣に一人の小兒あり

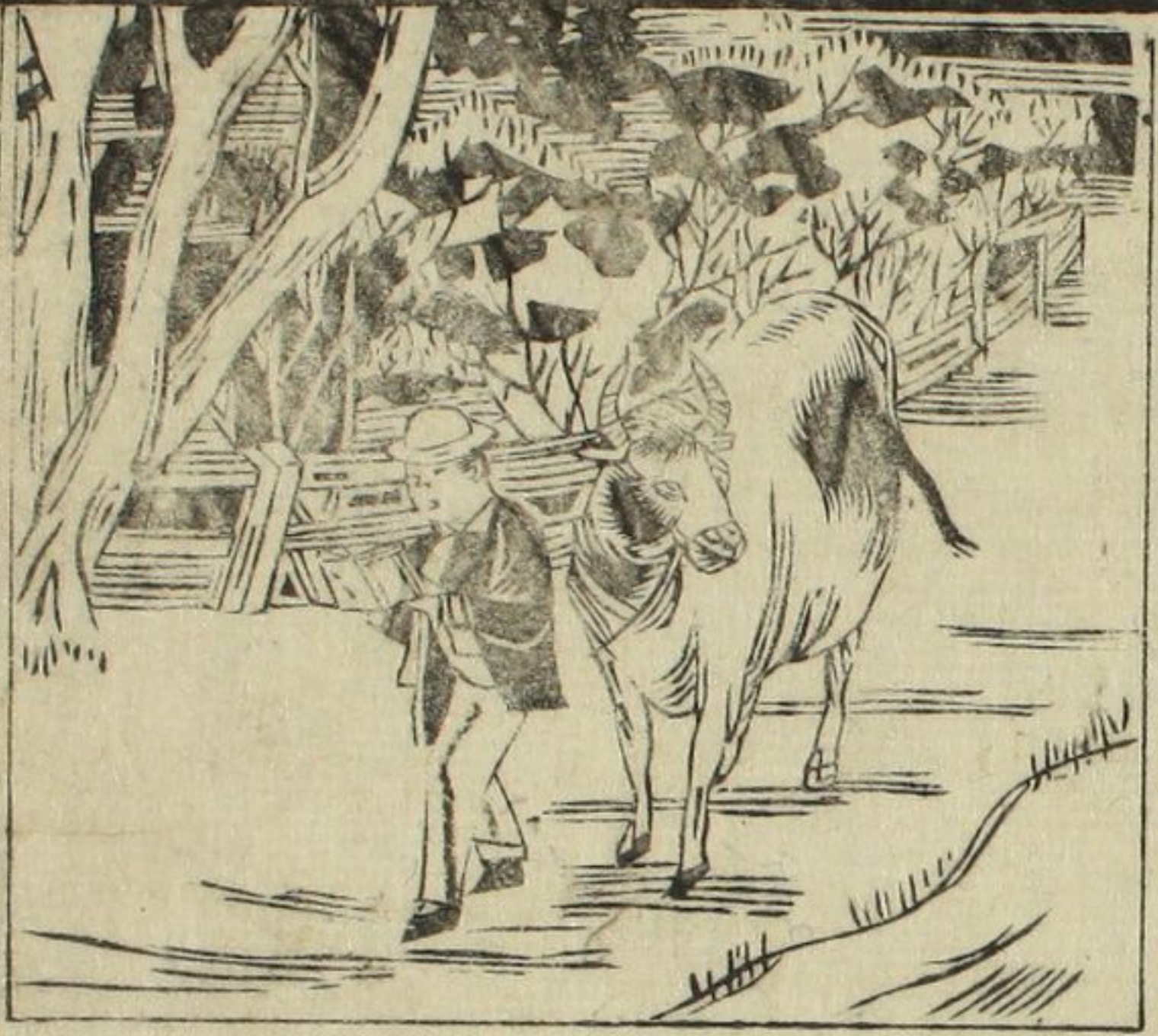


一ガ、此小兒ハ、至りて惡しきものにて、巧み目戲
 又、紙と焼きて、遊べる、其火、忽家の障子に燃え
 つき、然る此家まで、焼け失せたり○さきバ、今此
 人、我家に歸り來りても、未、妻子の行きたる所を
 も、知ること能はず、ゆゑに悲み歎くあり、
 今此人の家の、焼けたる時の状を圖して示さん
 ○火と、烟との家の窓より、吹出づる所を見よ○
 又、家を懸けたる、梯子あり○梯子より上りて火を
 消さんとする人あり○多くの人も、唧筒にて、頻
 々、水を注げり、



此圖は画きたるを、柔和なる牛より、此小兒は

然るども、火猶消えばして、
 家終に焼け落ちたるゆゑ、
 この家の人々を皆逃げ去
 りたりあり
 さきば、小兒は、火を弄ぶべ
 く、一度過つ時、家と
 も、倉とも失ひ、甚しきに至
 りて、其身をも失ふこと、
 可うものあり



小學讀本 卷二

隨ひ、徐々歩り、此小兒は、今牧場より、牛を曳き行
 く所あり。○此小兒は、何ゆゑ、歩みあがり、書を
 讀むや、此小兒は、其性極めて賢く、常に學問を
 ことと好み、家貧しき
 ゆゑ、學校に入ることに能
 ざり、然るども、牧場に行く
 あり、然るども、學問の志、深
 きに因りて、道を行く間も、
 書を讀むあり、又牧場に至
 りても、休む間、書を見ざ

ることあし、○此の如き小兒ハ、他日、必人よまさ
りて、貴き人とあるべし、

悪しき小兒ハ、日々、學校ヲ行くと雖、能く勉強セ
ざし、遊ぶことのみを、好むゆゑ、後ハ、愚ある
者とありて、貧賤ニ、其身を終るべし、

雲雀、巢を、麥畠の間ニ、造りて、雛を育てたり○麥
ハ、己ニ熟して、刈るべき時ニ至りたるニ、雛ハ、未
自由ニ、飛ぶこと能らん、一日、親鳥、食を求めんと
て、飛び去り、暮ニ及びて、歸り来まば、雛告げて今
日、此畠主ふる農夫其子と共に来りて、明日ハ、近

隣の人を雇ひて、此麥を、刈り取らんとて、歸せり
と云ふ、親鳥聞きて、彼近隣の人を、雇はんとあ
らば、未、急ニ、刈取るべし、
ハ、明日ハ、此處より、いと、
恐ろしく、足らぬといひ、其
翌日ハ、亦食を求めんとて、
飛び去りたり、
かくて、日の暮る、此親鳥
歸り来まば、雛又告げて、今
日ハ、農夫其子と共に来り、
近隣の人も、同ト



く、己々作りたる麥を刈るに、暇なれば、明日
の朋友、親族を頼みて、刈り取らんとて、歸きりと
云ふ、親鳥の、彼、尚他人を頼むの心なれば、明日も、
憂ふるは足らぬと、云へり

さて其翌日、親鳥例の如く、飛去りて、歸り来ると
雛の云ふ今日の、農夫父子来りて、かく麥の熟せ
るうへに、最早、他人の力を、待つは暇なれば、明日
は、自刈り取るべしとて、歸きりと云へり
親鳥の、これを聞きて、然らば我等も、疾く此處を
立ち去るべし農夫が、自刈り取らんと、決したる

うへに、必日を延ばさば、うへに、うへにと、
親鳥の言、實は理なり、他人に依りて、事を成さんと
とせる者、恐るは足らざれども、自為さんと
決する時に、須臾も、猶豫せざらば、けまばり、さ
ま、人々、皆自為さんことと志し、他人の力を
ば、頼むべしと云へり

第五

今、花園に、善き種子を、蒔きて、善き植物を、生ぜし
め、美しき花を、開らしめんことを、園中、蔓ま
る雑草を、抜き取り、ざるるときは、蒔きたる種子を、

害して生長すること、能くぞくぞく
 今、此處に、花園の、雑草を、抜き去る圖で、出だ
 以て、これを示さん
 地へ、もとよきものふまど
 も、善き種子と、蒔くざれば
 よき植物を生じ、美しき花
 と、開くこと能く、又、芽既
 は萌出せたる、とき、能く
 培養せざれば、生長はつこ
 と能く、雑草は、こそ又反



して種子を蒔くざれば、自生長し、こそを抜き
 去らざれば、大に蔓りて、善き植物を害し、終つこ
 くと、枯らして盡し、至るべし
 人の心へ、もと、善きものふまども、善き教へ、聞き
 て、これに従ふざれば、善き人と、成り難し教師の
 教へ、即、我心は、種子と蒔くは、同し、故に、心を用か
 て、これや育ひ、能く成長せしむべし、然れども、不
 正の心の、生じ易きこと、雑草の如く、おぼし心は
 蒔きたる、善き種子を害すべし、ものも、効め、こ
 こそを抜き去らば、はらるべし、べし、こそを抜き

是言本一巻二
 主
 大正

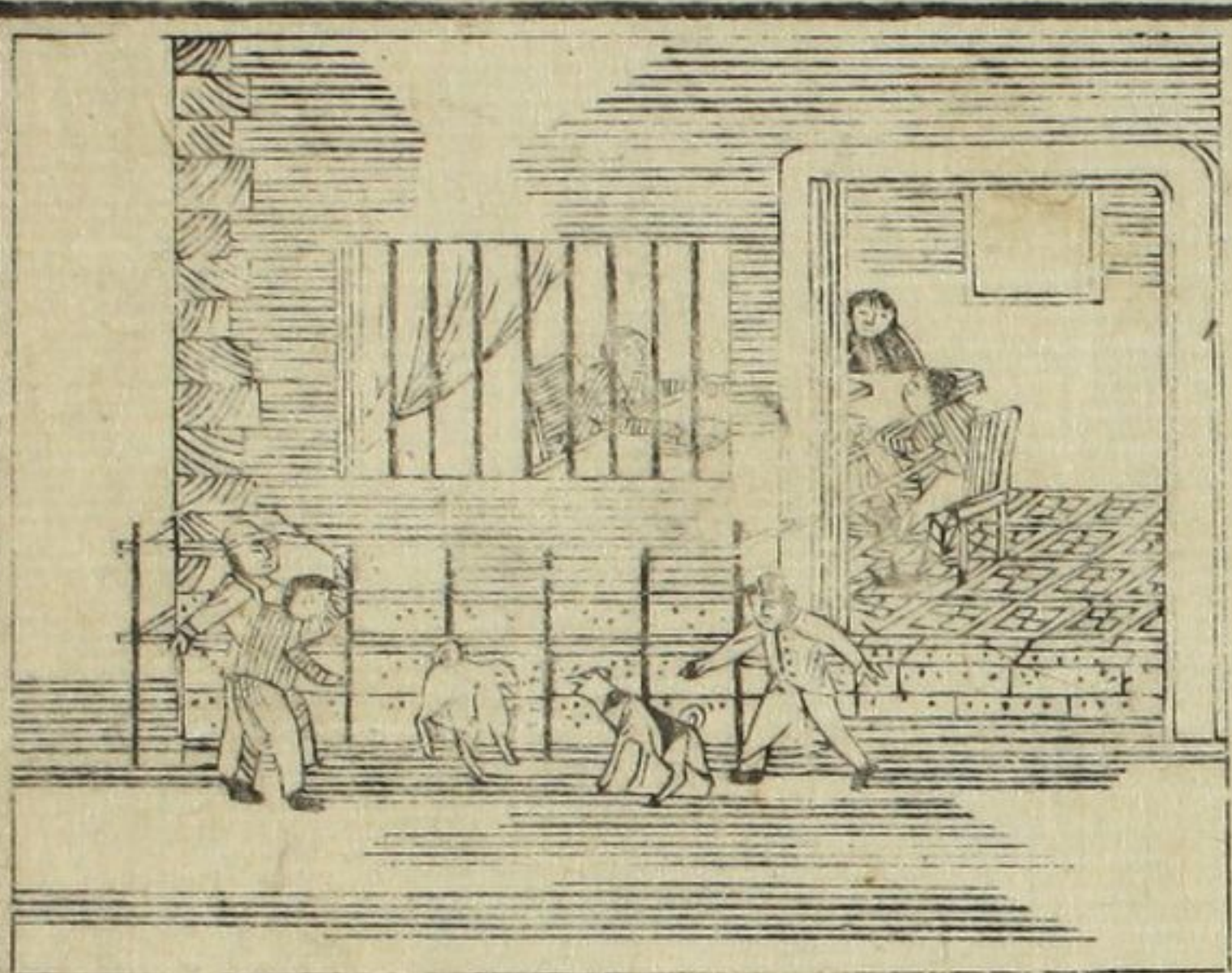
ま去ることと、怠りて成長せしむるときは、終つて
ハ、中々萌せり、良心を害し、こまを枯らし盡し
し、至るべし

汝等、善き人と、あつんことを欲せし此人の、雜草
を抜き去るが如く、勉めて、不正の心を、抜き去る
べし

爰は、圓き器と、四角ある器とを、入
またる水けり、もと水は同じけま
どし、其器の形より、或、圓く、或
四角ある、形と、なま



人も、小兒の時に、此水の如く善き友と交りて善
きことと、見聞けば、善き人とあり、又、惡しき友と
交りて惡しきことと、見聞けば、惡しき人と



ありあり
家の内外は、數多の小兒、りり
て、其遊ぶべきの、各異あるを
見らるべし、家の内ある小兒は、
日々學校にて、學びたる所を
家へ歸りて、其友と、互に問答
し、こまを樂らば、此等ハ、他

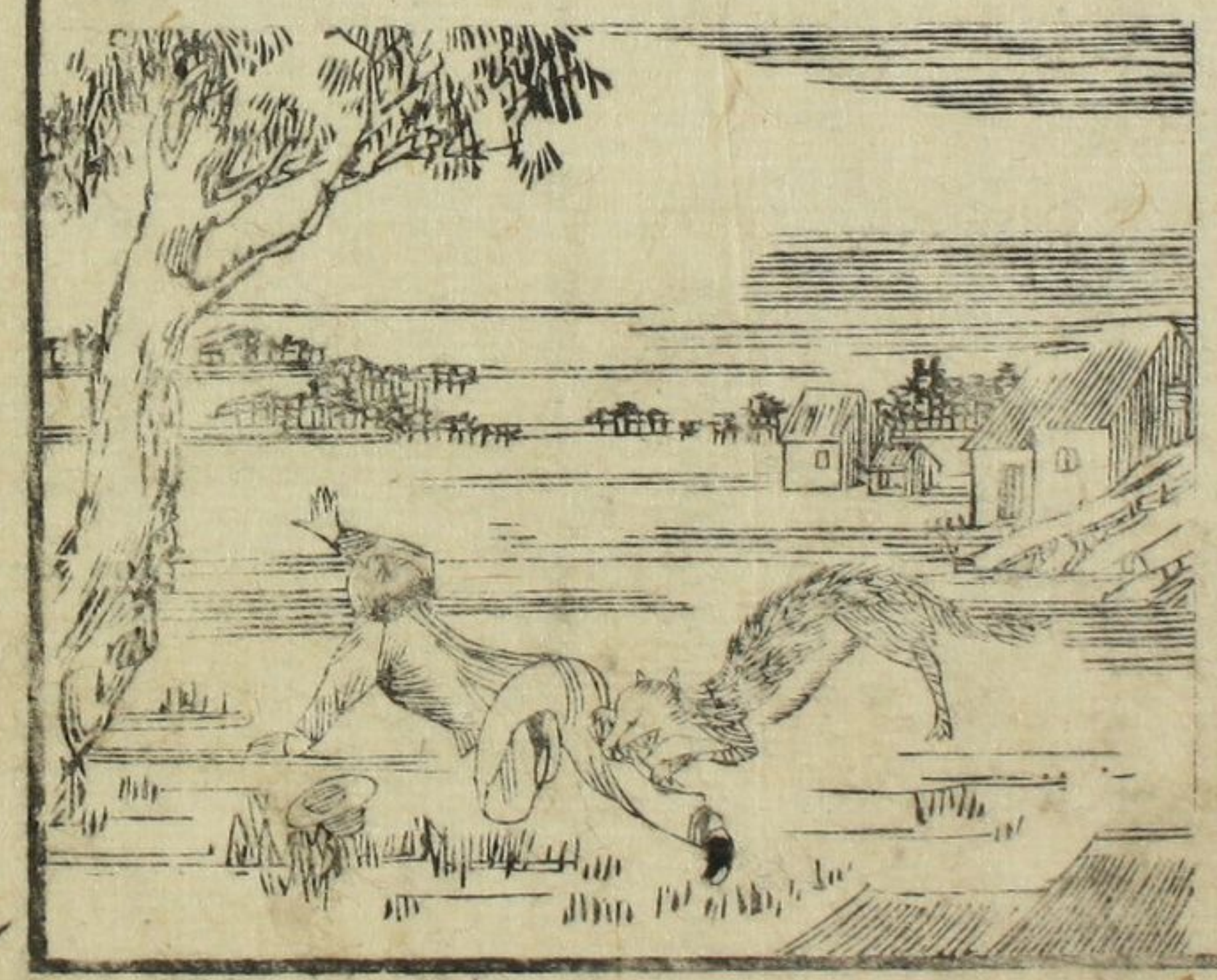
日、必賢き人とあふん、又外又集まり遊べる小
兒ハ、學校も、行らざる者と見え、犬と踏合
せ、棒々打揮り無益の遊のそとあせり、此等の後
日、必愚なるものとあふん、汝等賢き人とあふ
んと思ふに、能く心を用かて、常又善き友と交り
必惡しき小兒等と遊ぶべし、
汝等事の正しきことを知るときは、たとい他
日、利あること、思ふとも、決して行ふべし、
又惡しき業や、假にも、心又行ふこと、思ふ
べし、若し心又行ふこと、思ふときは、縦令

し

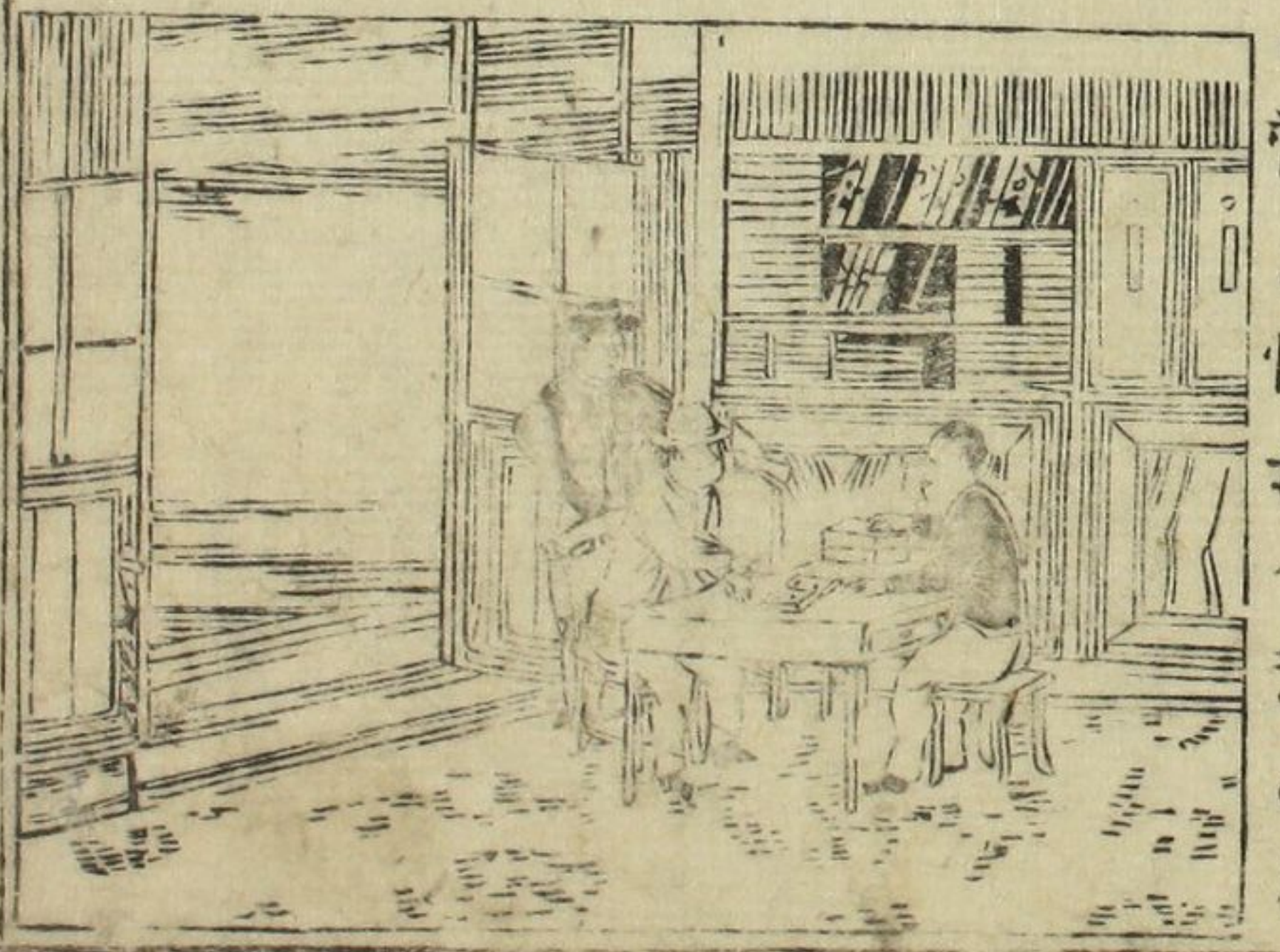
事には、出さばとも、既又行ひたるよ、同トと知る
べし

凡て惡事ハ、虚言より、始まるものあり、さきハ、暫
其身に、利益ありとも、決して、虚言いづべし、虚
言を以て、得たる利益ハ、他人の物や、盗みたるも
同ト、終るハ、其身の害とあふべし
むら、一人の男兒ありて、毎又、狼来たり、狼来ま
り、誰り出で、救ひ給へと、大又呼びて、途を走ま
り、こまハ、真又、狼の来たり、狼の来たり、他人の出
来りて、救ふんとまるとまき、欺き得たりとて、大

其人を笑ふを以て、戯とまらあり、
 斯くまらること、度々ありしが、ある日、真に狼来り
 て、此男児を食さんと欲
 男児の大に呼びて、狼来
 せり救ひ給へといへど
 も、誰も亦例の虚言あつ
 べしとてこそを、救ふも
 のふりりゆゑ、怒り、狼
 のため、噬み殺された
 り、故に平生、戯も、虚言



と以て、人を欺くもの、適、眞實のことと、語を
 も、信とあるもの、つゞぎれば、常は、慎むべきこと
 ありばや
 此處と、何如ある家ありと、
 思ふぞ、このこま、書肆あり、
 爰に、三人の男、つり、帽と戴
 きたる、二人の者、ハ、書籍を、
 買せんらため、此處に、来
 きたる、一人、既、一冊
 の書と、購ひ得て、去らんと



一人も机上の書の價を定め居るあり、
今此二人の書籍を買ふに、何の為ありや、家へ歸
りて、こゝをと理會し己の智識を増さんとあれば
あり、書ふければ、智識を増しこと能ふ、故に、志に
きとよば、國の利益と興にこと能ふ、故に、志に
る者へ、有用の書とば、金と惜まばしと、こゝを購
ふあり」

此圖の男は手と持てる書と讀みて、其義と小兒
と語り聞ふりむる、亦ありの汝、この小兒は能く
心を用ゐて、其話と聞くと思ふりの此小兒は、心



と用ゐて、其話を聞くと、見え
て此男の語ることを、深く考
ふるさまあり、思ふに、今聞く
所の此書の中の、尤大切なる
箇條あるべし。凡て、教を人
に受る者へ、決して、倦怠の心
と、生じべし。倦怠の心と

生ぢるときは、直に、其顔色を見れば、
ゆる者も、亦こゝを知らず、懇に教訓はることを
し、されば、教と受る者へ、皆此小兒の如く、心を用

る、其話と能く考ふべきことなり

第六

汝ハ、猫の兒を愛ひるなり、又、犬の兒を愛ひるなり、我ハ、猫の兒も、犬の兒も、其遊び戯るゝ所を見ることが好めり

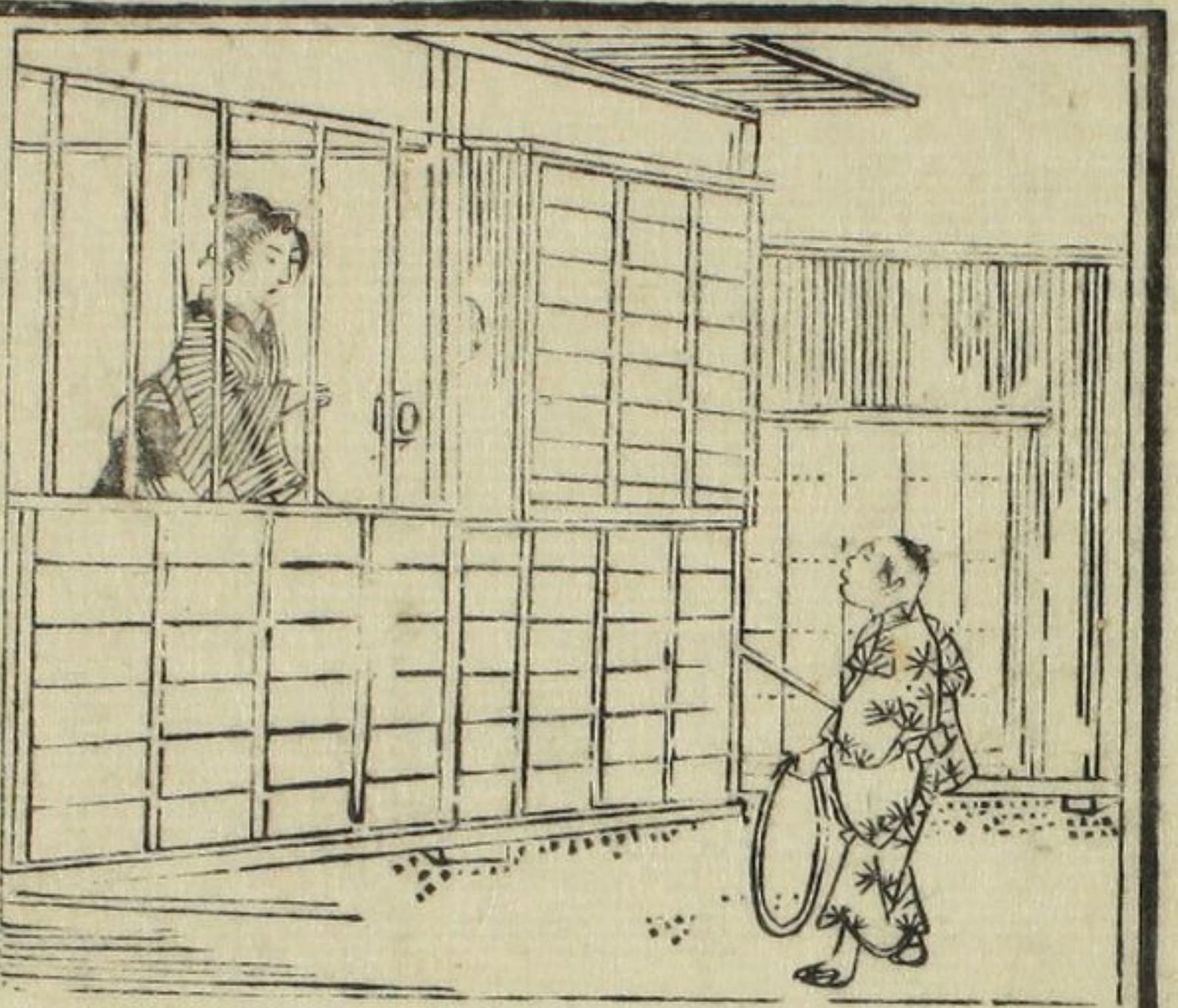
總て、獸類も、稚き時ハ、小兒の如く、遊び戯るゝことと好むものあり中には、猫の兒ハ、繩又ハ、鞠を弄びて、能く戯を遊ぶものあり



獸類も、年老ゆまば、遊び戯ることと好まば、人として、年長けたる後まで、遊び戯るゝハ、耻づべきことと見らば、老たる猫も、其兒の戯を遊ぶと見ることと好めども、其身に觸るゝことと喜ばざるものゆゑ、小兒ハ、遊び戯るゝとも、老人の身に觸き、又ハ、其椅子、机あど、ハ、決して、手と着くべし

此小兒ハ、學校より、善き生徒あり、○汝ハ、此小兒

かくし、思ひ居るありん定めて、此小兒等の他處
 へ行かんことを願ふありべし
 總て、人の自好まざることをば、人も亦好まざる
 ものと思ひ、遊び戯るにも、決して、人の妨とさ
 るべきこととあはれべし。又、自好むこと、人
 も亦好むもの、知りて、これをまづく、又譲るべ
 し、さきば、古き教へるも、己の欲せざる所、人、
 施ひことなほ、うれといひ、又、己、達せんと欲せば、人
 と達せしめよ、とも云へり
 爰、遊歩に出でんとは、小兒らり。汝、此小

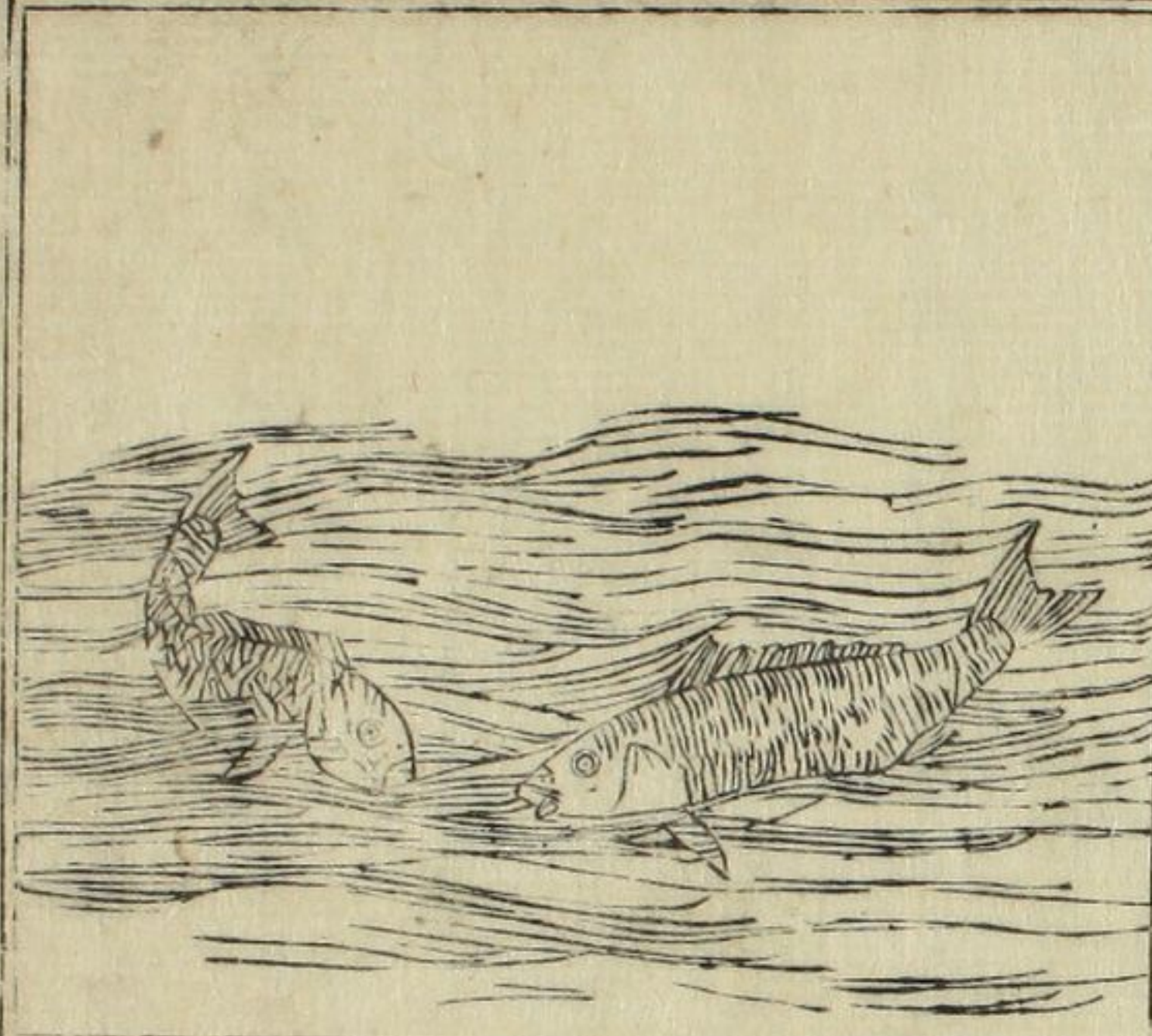


兒の、善きと、惡しきと、知
 かりや。我、本其人とふ
 りて、知らばと雖、今遊歩
 出でんとするに、其母、呼
 び返されて、遠く歸り来り、
 舌む色なきと、見まば、善き
 ものあるべし。其母、
 呼び返されて、こまを、厭ふ心の、色、見らるる
 必善きもの、又らるべしと知るべし
 此小兒、未、學校に入らざるか。此小兒、五六

小學讀本 卷二 完

歳、過ぎばと、見ゆまば、未、學校、入らざるべ
 し、我、此、小、兒、の、學、校、入、り、て、も、遊、歩、の、と、好
 ま、び、し、て、勉、め、て、書、を、讀、み、成、長、の、後、も、其、善、き、人
 たる、を、失、ひ、ま、い、ん、こ、と、を、願、ふ、あ、い

此、圖、は、画、け、る、ハ、何、物、あ、り、や、〇、こ、ま、い、魚、あ、り
 汝、ハ、生、き、た、る、魚、を、見、た、る、べ、し、〇、常、に、これ、を、見
 る
 汝、ハ、漁、せ、し、こ、と、を、し、る、べ、し、何、を、以、て、漁、せ、し、や、〇
 釣、と、糸、と、を、以、て、魚、を、釣、し、こ、と、を、し、り
 魚、ハ、水、中、に、住、む、の、ゆ、ゑ、水、を、離、る、と、ま、い、



其、命、を、保、つ、こ、と、能、ま、ぬ、〇、魚、ハ、鱗、と、尾、を、し、り、て、
 自、由、に、水、中、に、遊、泳、し、又、全、身、に、鱗、が、あ、り、鱗、は、
 き、り、り、其、鱗、も、魚、に、よ、り、て、大、小、を、異、に、せ、り

汝、ハ、魚、の、水、中、に、し、る、と、ま、
 も、其、目、ハ、よ、く、物、を、見、る、と、
 思、ふ、ら、〇、然、し、水、中、に、し、る、も、
 よ、く、物、を、見、る、を、り、〇、何、を、
 以、て、水、中、に、し、る、も、能、く、物、を、
 見、る、こ、と、を、知、ま、ら、や、〇、も
 し、水、中、に、し、る、物、を、見、る、こ、と、

能ハざる時ハ、必岩石又衝き當りて、頭ヤ傷くべ
 然ラざる其のた、よく物ヲ見ることヤ、得ま
 人ハ、水中又て、物ヲ見ること、分明あり、魚ハ、水
 中ヲても、甚分明あり、
 そま、魚の、水中ヲて、能く物ヲ見ること、其目、人と同
 ト、うざればあり、
 魚ハ、水中又住ミ、人ハ、空氣中に、住むゆゑ、人の
 空氣中ヲて、能く物ヲ見ること、魚の、水中ヲて、能く
 物ヲ見ること、同じ

今、この男兒ハ、家ヲ辭して、遠行せんとして、戸前の
 階ヤ降りたるゆゑ、其妹ハ、階ヤ降りて、くれヲ送
 り別、臨みて互ニ、言ヲ贈
 答する所あり
 兄曰、汝慎しく、家ヲ守り、能
 く、其身ヲ保つへし、火ヲ過
 つことあるれ、病ヲ生むる
 ことなる、まとの妹ハ、吾兄
 寒暑ヲ犯まべし、又久
 しく、他郷に、止まらば、云ふ

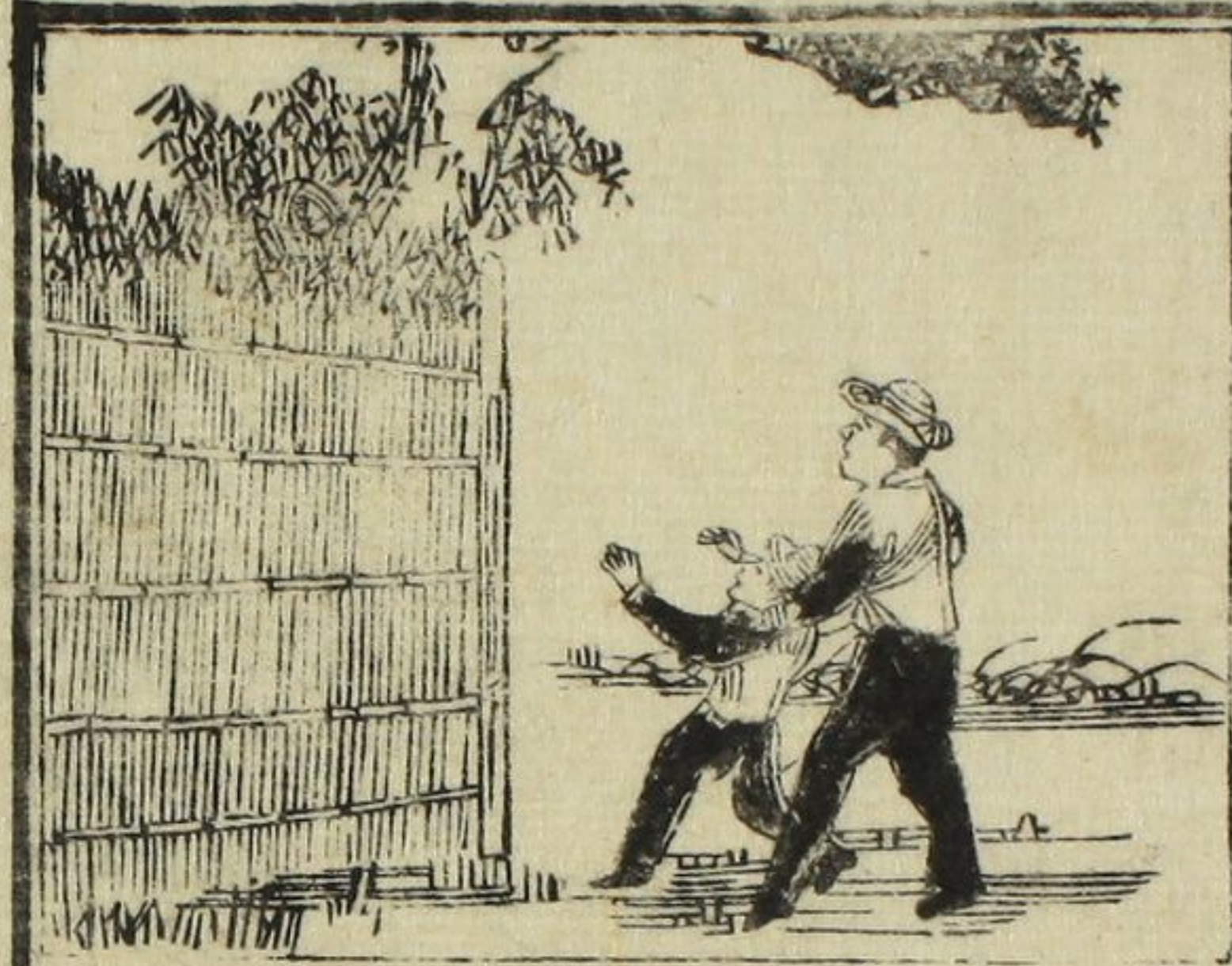


兄、又云ふ、予彼郷に到らば、速く書きて以て、安否を
報せむ、汝も、亦其安否を報せよ、予が他郷に在
る間、只汝の消息を得るを以て、樂とせんべき
の事
汝等、此二人を、何如するものと思ふや、○うねる
同胞の孤あり、孤といふ、幼稚のとき、兩親を喪ひ
たるものをいふ、
此二人、早く、兩親を喪ひたるゆゑ、今自身を立てん
てんとしむるあり、
今、この男子は、遠方へ行きて、幾年、妹と相見ると

とて得ばとル、文字と知まらぬゆゑ、互に、書簡を
贈答し、其安否を、審みしむることとて得べし
此二人、文字と知らぬゆゑ、何と因りて、音信
と、通じることとて得べき
汝等、此二人の、事を見て、能く文字を習ひ、勉めて、
書簡を作ることとて、學ぶべきなり
むらゝける家々兄弟の小兒あり、兄ハ、七歳に
て、弟ハ、五歳なり、○兄ハ、其才、最敏にして、心も、亦
優しとものあり、弟も、良き性質ありともの、尚幼き
ゆゑ、未だ世間の事と知らず、輒も、まじむ、過るたる

小學讀本 卷之二 三三

舉動とあることなり



ある日、兄弟と小鳥、郊外へ出で、遊ぶるにあり
家の、籬は、小鳥の巢作り、親鳥は、人の来りて驚き
て、飛び去り、入り兄弟は、巢
中と窺ひ見るに、雛三羽あり
弟は、悦びて、雛を取りて、持ち
歸らんとり、よと兄へ、これと
止めて、親鳥の子と愛ひるも、
父母の我等と、愛し給ふ、同
ト、今汝、この雛と、取り去らば

親鳥の悲、何如あるん若、我家より入り来りて我等
兄弟と、捕へ去るものなり、父母の悲と給ふと
と、幾あるん、ましてや、雛も、親鳥の、養ふ由りて、生
長はるものにして、今、人の手にかかり、あは、決
て、育つことなむ、づう、されば、今、この雛と、取
らざるこそよきまこと、諭し、けま、弟も、其理と、服
して、兄の教と、随ひたり
此弟の、鳥の、雛と、取らんとはる、殺生まるとも、
非まど、其理と、論を、かくの如し、まして、無
益と、殺生まるとや

鳥の悲、何如あるん若、我家より入り来りて我等

されば縦小き蟲たりとも、無益に殺れざるべし
世の理を知らざる者ハ、小き蟲を殺れを以て些
細の事とせし、實に些細の事と似たりと雖、こま
と殺さんと、思ふ心を即、些細の事にあらずば、この
心、既に慈悲と失ひたるあり、慈悲と失ひたる心、
漸長ざるに至らば、畜類を殺れのとあらずば、
終にハ、人と殺れの大惡にも陥るべし、豈恐むべき
べけんや

故に、殺生を、誠むるハ、慈善の人とあるべき階に
して、終にハ、類まをふる、善人とあらずば、身の幸福

を得るに至るべし

神奈川縣

ふくの海

河合

第五大区小區

宿河原村

川合縫治郎